

Fukuoka City Public Library Movie Hall  
福岡市総合図書館映像ホール

# シネラ

# 6

Ciné-là NEWS  
シネラ・ニュース  
June.1999 No.35

「特集」追悼

# 木下恵介監督特集



「お嬢さん乾杯」/イラスト:山下良平

## 【特別企画】

日本最大の実験映画コンペティション

# イメージフォーラム・フェスティバル1999

## 【特集】

水俣病にこだわったドキュメンタリスト

# 土本典昭監督特集

[特集]水俣病にこだわったドキュメンタリスト

# 土本典昭監督特集

水俣病の記録映画の連作などによって、社会運動と記録映画を密接に関係付け、小川紳介らと並び戦後を代表する記録映画作家である土本典昭を特集。



よみがえれカレーズ

不知火海



水俣 - 患者さんとその世界 -

会期 / 6月9日(水) ~ 6月13日(日)

観覧料 / 500円(大人) / 400円(大学生・高校生) / 300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

9日(水)19:00 / 11日(金)14:00 / 12日(土)11:00

## 留学生チュア・スイ・リン

1965年 / 16ミリ / モノクロ / 51分 / 藤プロダクション

演出 / 土本典昭 解説 / 大宮惇二

マレーシア留学生のチュアは本国から国費留学の身分を取り消され、大学は彼を除籍にした。処分の撤回を求める裁判を起こした彼をカメラが追ひ、その存在が学生達を惹きつけ運動の輪を広げていく。土本典昭の初めての自主製作作品。

## はじけ鳳仙花 - わが筑豊 わが朝鮮 -

1984年 / 16ミリ / カラー / 48分 / 幻燈社

監督 / 土本典昭 原案・絵・詞 / 富岡妙子

強制連行の末、炭坑の奥深く死んでいった朝鮮人抗夫達。画家・富岡妙子はリトグラフの連作によってその姿を描き続ける。芸術家の創作活動の現場と彼女とのインタビューを通して筑豊の炭坑における朝鮮人強制労働問題を扱った作品。

10日(木)14:00 / 12日(土)15:00

## 水俣 - 患者さんとその世界 -

1971年 / 16ミリ / モノクロ / 167分 / 東プロダクション

演出 / 土本典昭 撮影 / 大津幸四郎

土本典昭が水俣病に本格的に取り組んだ最初の作品。企業を相手取って訴訟を起こした二十九世帯を中心に潜在患者発掘までの過程を描きながら、単なる社会運動の記録を超越して同時に患者達の日常、その生活や世界をありのままカメラは捉えていく。

10日(木)19:00 / 13日(日)15:00

## 不知火海

1975年 / 16ミリ / モノクロ / 153分 / 青林社

演出 / 土本典昭 撮影 / 大津幸四郎

水俣病発生から20年。死の海だった不知火海でも魚達が帰ってきた。この海では昔ながらの漁法が続けられている。今なお死の恐怖にさらされながら「救済」された家族達がいる地区と、死者が出ながら手つかずの地区があった。水俣シリーズ中期の代表作。

9日(水)14:00 / 11日(金)19:00 / 13日(日)11:00

## よみがえれカレーズ

1989年 / 16ミリ / カラー / 116分 / 記録社=シグロ

演出 / 土本典昭 熊谷博子 アブドゥル・ラティフ

ソ連の撤退後、「国民和解政策」が発表され、続々と帰国する難民達。十年の内戦に疲れ、「もう兄弟殺しはしたくない。」と語る反政府ゲリラのリーダー。ソ連撤退直後から五ヶ月間に及ぶ取材による、内戦の後が生々しいアフガニスタンの記録映画。

# イメージフォーラム・フェスティバル1999

## 特別企画

日本最大の実験映画の祭典、イメージフォーラム・フェスティバル。日本及びアジア各国から公募された計527本から、優秀作品を選出。映像作家による招待作品と併せ、映像の"今"を紹介する。また6月5日(土)4時の上映では、映像作家・帯谷有理氏を迎えてのトークショーあり。

会期:平成11年6月2日(水)~6月6日(日)

観覧料:1,000円(当日1回券) 800円(前売り1回券) 2,100円(3回券) 4,500円(フリーパス券)

※定員制、各回入替制。※前売り券はローソンチケット(092-844-5945)、チケットぴあ(092-708-9999)で発売中。

※高齢者及び障害者割引はありません。

主催:イメージフォーラム・フェスティバル実行委員会 福岡市総合図書館 イメージフォーラム 横浜美術館

### program A 日本招待作品+一般公募入賞作品

- 「記憶力仁義」 1998年/ビデオ/53分 山村たけゆう
- 「第3の目」 1999年/16ミリ/8分 相原信洋
- 「鎖骨の下の」(一般公募部門審査員特別賞) 1998年/16ミリ/22分 荒牧亮子

### program B 日本招待作品+一般公募入賞作品

- 「白い塔は時を刻む」(一般公募部門特選) 1998年/8ミリ/22分 森史武
- 「AFTERIMAGE」 1999年/ビデオ/6分 播磨徹
- 「VENUS」 1999年/ビデオ/4分 中西義久
- 「内面のお話」 1999年/16ミリ/50分 鈴木志郎康

### program C 日本招待作品+一般公募入賞作品

- 「閉じた眼」 1999年/8ミリ/23分 ほしのあきら+十内野徹
- 「BORDER LAND」 1999年/16ミリ/15分 宮崎淳
- 「鏡の歌」(一般公募部門入選) 1998年/8ミリ/31分 坂口美樹
- 「部屋/形態」(一般公募部門特選) 1999年/16ミリ/7分 石田尚志
- 「光の中で」 1999年/16ミリ/6分 奥山順市

### program D 日本招待作品+一般公募入賞作品

- 「深く、あるいは静かに」(一般公募部門特選) 1998年/16ミリ/21分/韓国 カン・ミジャ
- 「蝕旋律」(一般公募部門入選) 1998年/16ミリ/30分 三宅流
- 「INCORRECT CONTINUITY」 1999年/16ミリ/9分 太田曜
- 「ANALA」 1999年/8ミリ/23分 万城目純
- 「静かな一日」 1999年/16ミリ/15分 伊藤高志

### program E 日本招待作品+一般公募入賞作品

- 「猿星」 1999年/8ミリ/25分 大西健児
- 「密漁されたフィルム」シリーズIFF'99セレクション 1998~99年/8ミリ+16ミリ/21分 末岡一郎
- 「福田さん」(一般公募部門大賞) 1998年/ビデオ/41分 宇田敦子

### program F 日本招待作品+一般公募入賞作品

- 「姫ころがし」 1999年/ビデオ/35分 寺嶋真里
- 「EAST」 1999年/16ミリ/22分 上岡文枝
- 「習慣走」(一般公募部門特選) 1997年/ビデオ/9分/香港 ジャムセン・ロウ
- 「夢の繪」 1999年/16ミリ/20分 かわなかのぶひろ

### program G 一般公募入賞作品

- 「夏に生まれる」(一般公募部門審査員特別賞) 1998年/ビデオ/76分/村上賢司

### program H 日本招待作品+一般公募入賞作品

- 「イコノクラスムNO.1」 1999年/16ミリ/12分 黒川秀朱
- 「De-Sign10(Dimensions-次元)」 1999年/ビデオ/12分 ビジュアル・プレインズ(風間正+大津はつね)
- 「MIRROR LINE」 1998年/ビデオ/4分 山本信一
- 「OZ MIX」 1999年/ビデオ/5分 原田一平
- 「ヒタリ調教」(一般公募部門入選) 1999年/8ミリ/57分 白川幸司

### program I 帯谷有理の歌劇シネマ

- 「毛髪歌劇」 1992年/8ミリ/60分 帯谷有理
- 「フランス映画」 1994年/16ミリ/10分 帯谷有理
- 「アホの原チャリ娘-夢見るパイポルガン-」 1999年/16ミリ/20分 帯谷有理

### 帯谷有理トークショー

「デジタル映画:音を発見しながら映画を撮る」  
※映像作家の帯谷有理氏が来福。自作について語る。

### program J 特集・20世紀を忘れる(1)

- 「行為の移行」 1993年/16ミリ/12分/オーストラリア マーチン・アノルド
- 「人生のワルツ/ベルトコンベアー/55,95/円舞曲 18番」 1988,94,95年/16ミリ/9分/オーストラリア グスタフ・ドイチュ
- 「映画である」 1998年/16ミリ/60分/オーストラリア グスタフ・ドイチュ

### program K 特集・20世紀を忘れる(2)

- 「Killer.berlin.doc」 1999年/ビデオ/74分/ドイツ ベティーナ・エーラ+カン+イェーグ・ハイトマン

### program L プリティッシュ・ビデオ

- 「膨らんでいくスティグマ」 1998年/ビデオ/21分/イギリス サラ・パシル
- 「\*脚注」 1998年/ビデオ/5分/イギリス マイケル・カラン
- 「ダスト」 1998年/ビデオ/9分/イギリス アンソニー・アタナシオ
- 「モノローク」 1998年/ビデオ/46分/イギリス イアン・ボン



福田さん

アスバラガス

変化する部屋

毛髪歌劇

### program M トリック・イメージ

- 「キス」 1999年/ビデオ/5分/イギリス ジョン・スミス+イアン・ボン
- 「海辺にて」 1992年/35ミリ/14分/フランス バトリック・ボカノウスキー
- 「目まぐるしい動き」 1998年/16ミリ/9分/オランダ カレル・ドゥーイング
- 「くらくらするもの」 1996~97年/ビデオ/10分/イギリス ビーター・コリス
- 「STRIPS」 1998年/ビデオ/8分/日本 佐藤義尚
- 「リサイクリング・シネマ」 1998年/ビデオ/12分/香港 エレン・ボウ
- 「ここに座っている」 1996年/35ミリ/8分/オーストラリア アリソン・ベル
- 「変化する部屋」 1997年/35ミリ/6分/オーストラリア アリソン・ベル

### program N ダニエル・チプリ&フランコ・マレスコ映像作品集

- 「記憶より」 1996年/ビデオ/41分/イタリア ダニエル・チプリ&フランコ・マレスコ
- 「マノッキオ」 1996年/ビデオ/10分/イタリア ダニエル・チプリ&フランコ・マレスコ
- 「1991年から1997年までの短編とドキュメンタリー」 1991~97年/ビデオ/26分/イタリア ダニエル・チプリ&フランコ・マレスコ
- 「皮肉テレビ」 1993~95年/ビデオ/15分/イタリア ダニエル・チプリ&フランコ・マレスコ

### program O アスバラガス

- 「アスバラガス」 1979年/16ミリ/18分/アメリカ スーザン・ビット
- 「ジェファーソン・サーカス・ソング」 1973年/16ミリ/16分/アメリカ スーザン・ビット
- 「ジョイ・ストリート」 1995年/35ミリ/24分/アメリカ スーザン・ビット

	2:00	4:30	7:00
6/2水	L	A	G
3木	B	H	K
4金	N	C	F
	11:00	1:30	4:00
5土	M	O	I
6日	D	E	J

上映スケジュール

日本最大の実験映画コンペティション

「特集」追悼

# 木下恵介監督特集

昨年12月30日、八十六歳で亡くなった木下恵介監督の黄金時代の傑作、名作を中心に回顧する追悼特集。

会期／6月16日(水)～6月25日(金) ※休館日を除く

観覧料／500円(大人)／400円(大学生・高校生)／300円(中学生・小学生)

※定員制を各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

撮影中の木下監督

'98年12月30日、木下恵介監督が享年86歳で亡くなられた。戦時中の'43年「花咲く港」(松竹)で監督デビューし、遺作となった'88年の「父」まで映画49作品を手がけ、'64年にはTVにも進出して「木下恵介劇場」「木下恵介アワー」などの演出、監修等40作品近いTVドラマがある。

木下恵介はやはり昨年亡くなった黒澤明と監督デビューも同じであり、共に第一作から高い評価を得て、戦後は日本映画を牽引する両輪と評された。「世界の黒澤」に対し、「日本の木下」という人もいる。叙情的な作品が特に有名だったが、実際には喜劇から社会派まで幅広くこなす監督であった。人材を育てることで有名であり、監督の小林正樹、川頭義郎、松山善三、脚本家の山田太一など彼の門下と呼ばれた人は数多い。

16日(水)14:00/19日(土)11:00/23日(水)19:00

## 陸軍

1944年/35ミリ/87分/モノクロ/松竹  
監督/木下恵介 出演/田中絹代

息子を立派な軍人として育てようとする母親とそれに応じて成長し、やがて軍人として出征する息子を描く。陸軍の後援による戦時下映画の大作として企画されながら、木下はラストシーンの長い移動撮影によって、厭戦映画としてしまった。



<当時の福岡市でのロケ>

16日(水)19:00/20日(日)11:00/23日(水)14:00

## お嬢さん乾杯

1949年/35ミリ/モノクロ/90分/松竹  
監督/木下恵介 出演/原節子

田舎者がさつな成金男と没落した名家の娘のすれ違い恋愛喜劇。ヒロインを原節子が演じ、小津映画とは異なる魅力を感じさせる。木下恵介としては初めての本格喜劇だが、アップテンポな都会喜劇の傑作であり、公開時大ヒットした。



17日(木)14:00/24日(木)19:00

## カルメン故郷に帰る

1951年/35ミリ/モノクロ/86分/松竹  
監督/木下恵介 出演/高峰秀子

日本映画初のカラー映画。東京でストリッパーとなった家出娘が、仲間のストリッパーと一緒に、田舎に里帰りしてくる。二人の派手な服装と突飛な行動で村は大騒ぎとなる。しかし、自分たちを芸術家と思っている二人は遂に村で公演をすることに。



18日(金)19:00/20日(日)15:00/24日(木)14:00

## 二十四の瞳

1954年/35ミリ/モノクロ/156分/松竹  
監督/木下恵介 出演/高峰秀子

木下恵介の代表作であり、戦後、日本映画を代表する名作。小豆島の分教場に赴任した若き女教師と教え子達との18年間の交流を通して、激動期の日本の中で戦争や貧困、旧弊な家族制度のもたらす悲劇を描いていく。



17日(木)19:00/19日(土)15:00/25日(金)14:00

## 野菊の如き君なりき

1955年/35ミリ/モノクロ/92分/松竹  
監督/木下恵介 出演/有田紀子

伊藤左千夫の原作「野菊の墓」の映画化。何十年ぶりに帰郷した一老人による回想によって語られる少年時代の主人公と年上のいとことのはかない悲恋物語。ノスタルジックな撮影と叙情的な語り口によって、木下作品の中でも最も映像的な名作。



18日(金)14:00/25日(金)19:00

## 喜びも悲しみも幾年月

1957年/35ミリ/カラー/151分/松竹  
監督/木下恵介 出演/高峰秀子

北海道・納沙布岬から五島列島の女島まで全国縦断ロケによる燈台守夫婦の二十五年間の年代記。日中戦争勃発から戦後まで激動の昭和史の中で、仕事への誇りと夫婦愛、家族愛とが重なりあう感動的作品であり、主題歌と共に大ヒットした。



実験映画という映画

実験映画の語源は1920年にソビエトのクレシヨフが創設した「実験映画工房」と言われています。しかし、実験映画という言葉自体は特定の芸術運動などだけを指すのではなく、「実験的な」映画すべてを指すものだとはいえるでしょう。また映画は早くから産業化されたために、その表現は少なからず商業主義の束縛を受けてきました。こうした束縛に対し、より自由な表現を試みた映画を「実験映画」と捉えることも可能でしょう。もちろん商業映画の枠内においても多くの実験的な試みが行われていますし、その境界は曖昧なものといえるかも知れません。

定説では日本の実験映画の最初は1955年に製作された大辻清司らによる「キネカリグラフ」とされています。もともと欧米の影響が強かったこの分野も、以後40年以上の間に独自の発展を遂げて、80年代以降欧米からも注目されるようになりました。当館でも開館初年度から、日本の実験映画の歴史的な作品を収集しており、併せて福岡にゆかりのある作家の作品も集めて、特集としてこれらの作品の紹介もしています。実験映画は常に前衛もしくは同時代的な表現を強く意識した映画です。一方で45年の間に独自の文法を育ててきました。それは映像における知的表現の一つの歴史ともいえ、それらの作品はそれぞれその時代を敏感に反映したものであるのです。毎年開催されるイメージ・フォーラム・フェスティバルと共にこうした特集にも足を運んでいただければ幸いです。

(映像調査員 山本 幸)



「映画である」グスタフ・ドイチュ

6月

1 火	休 映 日		
2 水	14:00 プログラム L	16:30 プログラム A	19:00 プログラム G
3 木	14:00 プログラム B	16:30 プログラム H	19:00 プログラム K
4 金	14:00 プログラム N	16:30 プログラム C	19:00 プログラム F
5 土	11:00 プログラム M	13:30 プログラム O	16:00 プログラム I
6 日	11:00 プログラム D	13:30 プログラム E	16:00 プログラム J
7 月	休 館 日		
8 火	休 映 日		
9 水	14:00 よみがえれカレーズ	19:00 留学生チャイスイリン	はじけ嵐仙花
10 木	14:00 水俣 -患者さんとその世界-	19:00 未知火海	
11 金	14:00 留学生チャイスイリン	はじけ嵐仙花	よみがえれカレーズ
12 土	11:00 留学生チャイスイリン	はじけ嵐仙花	水俣 -患者さんとその世界-
13 日	11:00 よみがえれカレーズ	15:00 未知火海	
14 月	休 館 日		
15 火	休 映 日		
16 水	14:00 陸軍	19:00 お嬢さん乾杯	
17 木	14:00 カルメン故郷に帰る	19:00 野菊の如き君なりき	
18 金	14:00 喜びも悲しみも幾年月	19:00 二十四の瞳	
19 土	11:00 陸軍	15:00 野菊の如き君なりき	
20 日	11:00 お嬢さん乾杯	15:00 二十四の瞳	
21 月	休 館 日		
22 火	休 映 日		
23 水	14:00 お嬢さん乾杯	19:00 陸軍	
24 木	14:00 二十四の瞳	19:00 カルメン故郷に帰る	
25 金	14:00 野菊の如き君なりき	19:00 喜びも悲しみも幾年月	
26 土	自主上映「浮き雲」		
27 日	自主上映 美空ひばりチャリティ		
28 月	休 館 日		
29 火	休 映 日		
30 水	休 館 日		

お知らせ

INFORMATION

ギャラリー展示  
第3回文書資料新収蔵品展  
～郷土福岡の歴史～

平成9年度に収集した古文書等を紹介する展覧会を開催します。今回の展示は、「福岡藩政」「福岡藩の学者」「明治大正時代の福岡」「昭和時代の福岡」の4つのコーナーに分けて行います。まず、「福岡藩政」では、藩主黒田氏とその家臣の関係資料、「福岡藩の学者」では、修猷館を創

設した竹田氏、甘棠館を創設した亀井氏の関係資料を展示します。「明治大正時代の福岡」「昭和時代の福岡」では、明治から昭和まで、各時代の福岡で活躍した人物の関係資料を展示します。

会期：平成11年6月29日(火)～8月31日(火)

会場：福岡市総合図書館1階ギャラリー  
観覧料：無料

各団体の自主上映

6月26日(土)  
「浮き雲」(監督:アキ・カウリスマキ)  
観覧料：前売1,500円、当日1,800円  
主催:福岡映画サークル協議会TEL:092-781-2817

6月27日(日)  
美空ひばりチャリティ 懐かしの映画会  
上映作品:「ふり袖太鼓」「続々べらんめえ芸者」  
観覧料：前売1,300円、当日1,500円  
主催:美空ひばり後援会TEL:093-293-2415  
(20時以降)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

映像ホール利用申し込みについて

平成11年10月以降、映像ホールで図書館の企画上映がない下記の期間は、映像ホールを有料で利用することができます。(但し映像文化の普及振興を目的とした非営利の映写会の利用に限る)  
期間：平成11年10月27(水)～10月30日(土)  
平成11年11月24(水)～11月28日(日)  
10/27～10/30は5月1日(土)11時より受付  
11/24～11/28は6月1日(火)11時より受付  
利用に関しては条件等がございますので、詳しくは福岡市総合図書館映像資料課TEL:092(852)0608までお問い合わせ下さい。

ミニシアター  
イギリス映画特別上映会  
「Distant Voices, Still Lives」

監督、脚本: Terence Davies  
1988年/カラー/84分/日本語字幕なし(当日あらすじを配布します。)

日時：6月19日(土)14:00～  
会場：福岡市総合図書館ミニシアター  
観覧料：無料

お問い合わせ/092-752-3750/プリティッシュ・カウンシル福岡オフィス

シネラNEWS送付のご案内

シネラで上映する作品の紹介や上映スケジュール、図書館で開催される各種イベント等の情報を掲載した「シネラNEWS」を毎月お届けします。定期購読を希望される方は平成11年7月より平成12年3月号迄の月数分の郵便切手(90円×月数分)を同封して下記宛先までお申し込み下さい。

宛先：  
〒814-0001福岡市早良区百道浜3丁目7番1号  
福岡市総合図書館映像資料課まで

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影された8ミリビデオや各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)  
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで



交通機関：地下鉄西新駅および藤崎駅より徒歩15分  
西鉄バス博物館南口および福岡タワー南口バス停留所より1分  
都市高速百道ランプより車で2分

編集雑記

いつもシネラニュースをご愛読いただきありがとうございます。さて、当館では、より多くの方に映画に親しんでいただけるよう、この度、シネラニュースのデザインを一新し、掲載する映画情報の内容の充実を図ることとしました。今後とも、映像ホール・シネラをご利用いただきますようよろしくお願いいたします。

(岩下)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609